

令和 7 年度 1 学期

府中市標準学力調査
考察資料

中学校

後期課程

調査目的

●府中市内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 府中市内の中学校の1・2・3年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・社会・数学・理科・英語

◆用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標標準拠評価方式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

「思考・判断・表現」が良好である

正答率一覧

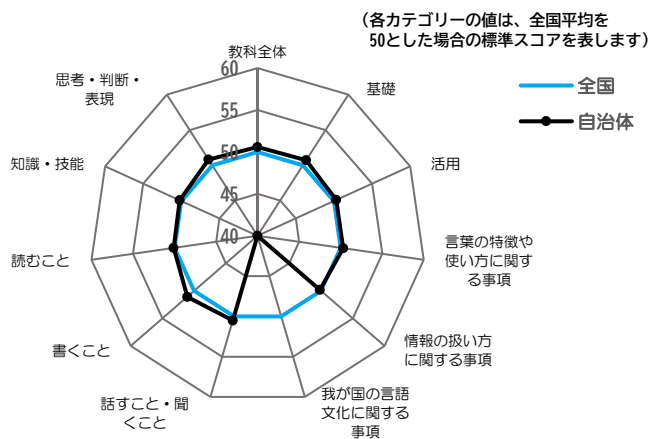
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		61.8	65.8	
基礎		66.2	70.7	
活用		52.5	55.3	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.9	69.2	
	情報の扱い方に関する事項	65.0	72.6	
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	63.3	66.5	
	書くこと	54.2	62.0	
観点別	読むこと	57.5	62.9	
	知識・技能	68.5	69.5	
	思考・判断・表現	57.3	63.2	

分析 コメント

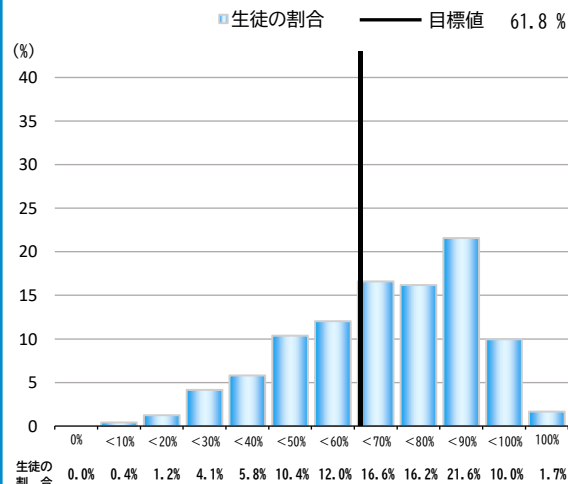
中1国語は、教科全体の正答率が65.8%で、目標値を4.0ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が63.2%で、目標値を5.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

インタビューの内容を聞き取る

大問1(3)

<ねらい>

意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をしている。

目標値 40.0% 正答率 26.6% 差 ▲ 13.4 ポイント

指導のポイント

本問では、インタビューを聞きながら、山口さんと清水さんのやり取りをメモした上で、【インタビューの様子】で山口さんが考えていることを参照し、清水さんの最後の発言に関連する内容を特定していく。「具体的には」という言葉がポイントになる。インタビューを行うときに大事なことの一つ目は、相手について調べて、そこから聞きたいことを質問として準備しておくことである。二つ目は、インタビューでのやり取りの中で、相手の話した内容から更に興味や疑問をもったことについて、臨機応変に対応していくことである。ここでは二つ目のことを意識して考えていくとよい。

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい>

小学校で学習した漢字を正しく書いている。

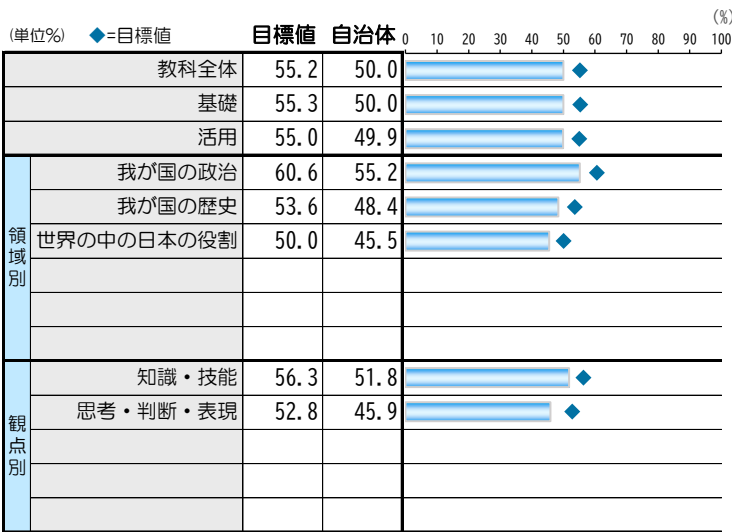
目標値 60.0% 正答率 50.6% 差 ▲ 9.4 ポイント

指導のポイント

漢字に習熟させるためには、日頃から生徒が漢字に触れる機会をできるだけ増やす必要がある。特に漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる習慣を身に付けていくことが重要となる。文脈に即して漢字を適切に用いることができるよう、授業において意図的に取り上げるなどの工夫をしながら、学習させることが大切である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

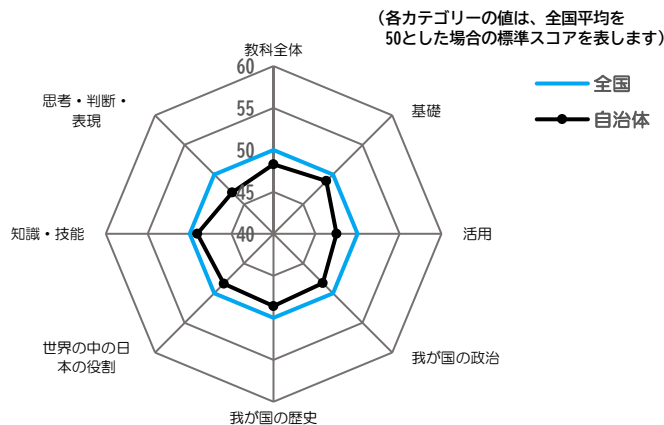


分析 コメント

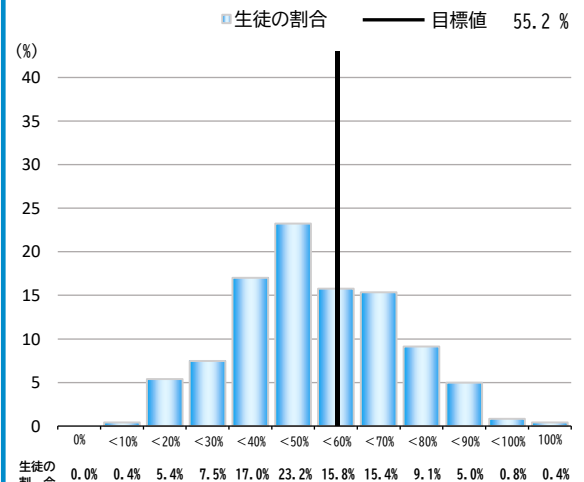
中1社会は、教科全体の正答率が50.0%で、目標値を5.2ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が45.9%で、目標値を6.9ポイント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

安土桃山時代、江戸時代

大問5(3)

<ねらい> 本居宣長の業績について理解している。

目標値 40.0% 正答率 11.6% 差 ▲ 28.4 ポイント

指導のポイント

国学が、仏教や儒教などが中国から伝わる前の、日本古来の考え方を研究しようとする学問であったこと、本居宣長が「古事記」や「源氏物語」などの日本の古典を研究し、国学の発展に重要な役割を果たしたことを押さえさせる必要がある。国学は、天皇を尊ぶ思想と結び付き、幕末の尊王攘夷運動に影響を与えたことを理解させたい。さらに、江戸時代後半、どのようにして学問や教育が盛んになったのか、その背景について指導することも大切である。

明治時代～昭和時代

大問8(1)

<ねらい> 第二次世界大戦後の民主化政策について、資料をもとに考え表現している。

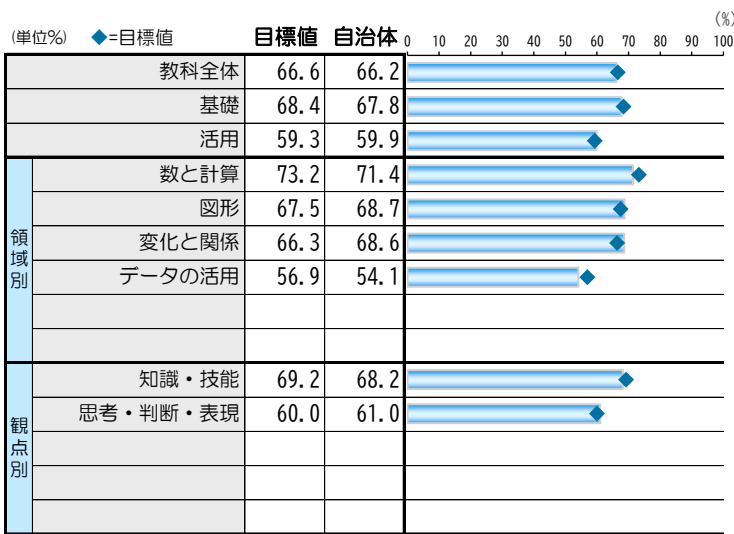
目標値 50.0% 正答率 31.1% 差 ▲ 18.9 ポイント

指導のポイント

選挙権は当初、財産や性別などによって制限されていた。順次、制限は緩和されてきたが、最後に残された制限が性別によるものであった。1946年4月の衆議院議員総選挙より、女性にも選挙権が付与され、併せて選挙権年齢も従前の満25歳以上から満20歳以上に引き下げられたことについて、しっかりと確認させたい。また、この選挙で選ばれた国会議員によって、日本国憲法の審議が行われたことも指摘する必要がある。

「知識・技能」の定着に課題が残る

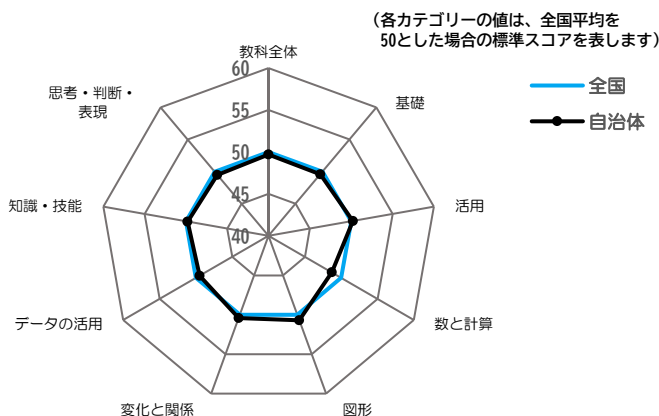
正答率一覧



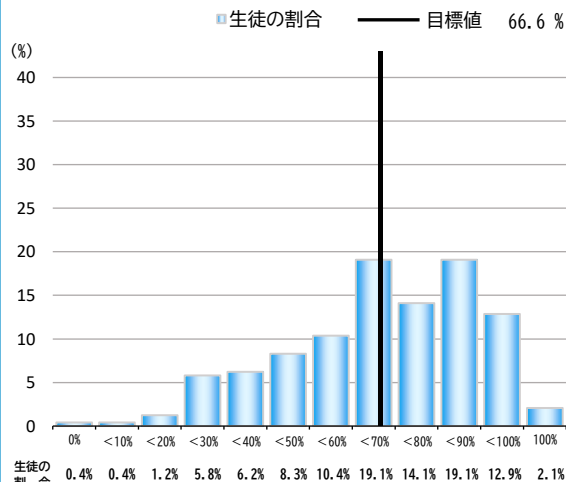
分析 コメント

- 中1数学は、教科全体の正答率が66.2%で、目標値を0.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が61.0%で、目標値を1.0ポイント上回った。一方、「知識・技能」が68.2%で、目標値を1.0ポイント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

小数・分数の計算

大問3(3)

<ねらい>

異分母分数の減法(約分なし)の計算ができる。

目標値 80.0% 正答率 67.2% 差 ▲ 12.8 ポイント

指導のポイント

それぞれの分数を数直線上に表し、なぜ分母をそろえなければ計算ができないのかをしっかりと理解させる必要がある。本問は、減法の後に約分の必要のない問題であるが、約分が必要な場合も考えられる。日頃から、異分母の分数の減法の場合には、通分して計算したら、その後で約分できないかどうか、必ず考える習慣を身に付けるよう指導することが大切である。

データの活用

大問22(1)

<ねらい>

ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取ることができる。

目標値 40.0% 正答率 30.7% 差 ▲ 9.3 ポイント

指導のポイント

本問では、まず、最頻値や中央値といった代表値の意味と必要性を捉えさせる指導が必要である。最頻値に関しては、データの中で最も多く現れた値であることを確認させ、ドットプロットの数値を読み間違えないように注意させる。また、中央値に関しては、全てのデータを値の大きさの順に並べた際の中央の値であること、データの個数が奇数個と偶数個の場合で求め方が異なることなどを、しっかりと理解させたい。これらと併せて、ドットプロットへの表し方や、ドットプロットからのデータの読み取りの習熟を図ることも重要である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

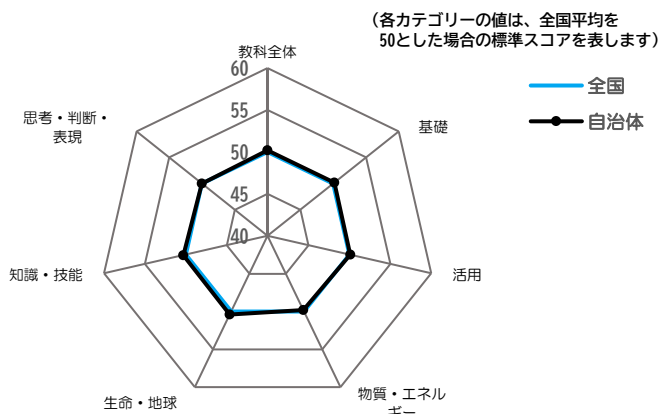
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		56.2	53.0	
基礎		58.6	55.8	
活用		50.6	46.3	
領域別	物質・エネルギー	50.4	45.2	
	生命・地球	60.0	58.1	
観点別	知識・技能	58.7	55.9	
	思考・判断・表現	51.8	47.9	

分析 コメント

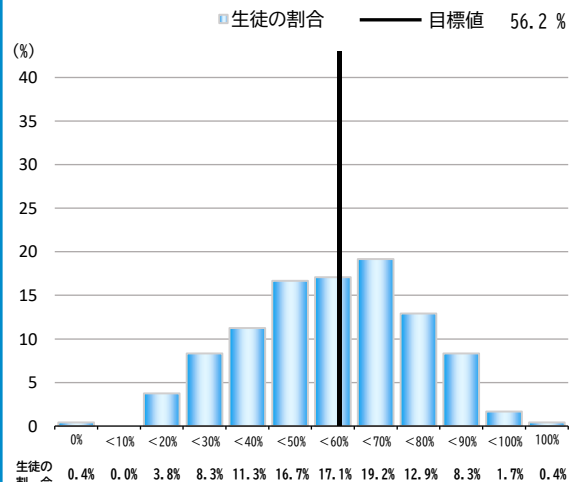
中1理科は、教科全体の正答率が53.0%で、目標値を3.2ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が47.9%で、目標値を3.9ポイント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

大地のつくりと変化

大問8(2)

<ねらい> 火山灰を観察するときの操作を身に付けている。

目標値 40.0% 正答率 19.6% 差 ▲ 20.4 ポイント

指導のポイント

火山灰について、木や紙が燃えた後の灰をイメージする生徒がいる。そのような生徒は、正答の④の操作をすると灰が流れてしまうので、灰の観察には攪拌・ろ過の操作が適切であると考え誤答する場合もある。火山灰は火山の噴出物の一つで細かい破片であり、土や砂が混合していること、これらを取り除くため、少量の水を加え、指で塊をつぶすように洗い、水が濁らなくなるまで繰り返すという作業について説明したい。火山灰の観察の経験がないと難しい問題であるので、誤答が多い場合は、実際に演示し、作業を確認させるとよい。

電気の利用

大問10(2)②

<ねらい> 手回し発電機と光電池がついている非常用ライトが災害時にどのように役立つかを推測できる。

目標値 40.0% 正答率 20.8% 差 ▲ 19.2 ポイント

指導のポイント

生徒は、日々当たり前の様にさまざまな電気器具(道具)を使っている。それらの道具は、停電になると使えなくなるが、長時間の停電の経験がないと、電気が使えないときの状況を理解できない場合も多い。災害などの停電時の状況を説明し、どのような発電方法が必要かを考えさせるとよい。電気が使えないときは、手動による発電と光による発電が有効であることを理解させて、本問のように災害時に使う道具に光電池が付いている意味に気付かせることが大切である。

「知識・技能」が良好である

正答率一覧

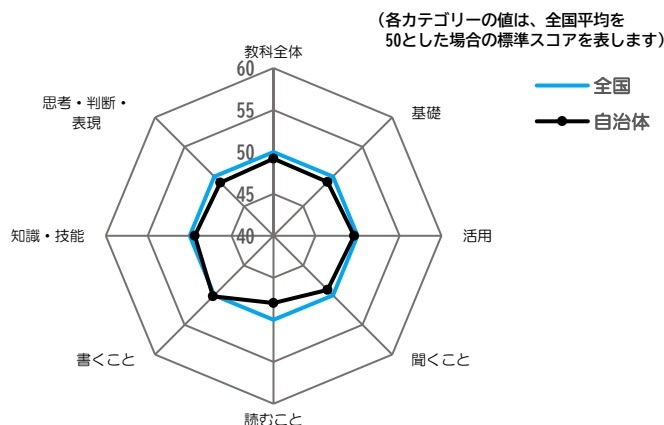
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		77.6	80.2	
基礎		78.1	80.7	
活用		75.6	77.8	
領域別	聞くこと	79.4	83.3	
	読むこと	77.3	78.3	
	書くこと	75.9	78.2	
観点別	知識・技能	79.1	82.5	
	思考・判断・表現	75.0	76.1	

分析 コメント

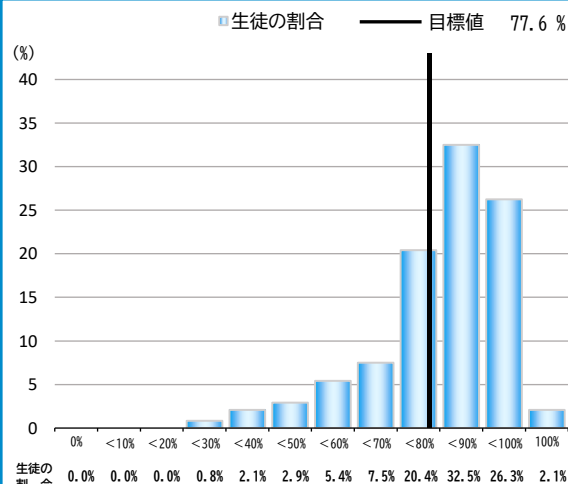
中1 英語 A は、教科全体の正答率が80.2%で、目標値を2.6ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「知識・技能」が82.5%で、目標値を3.4ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

アルファベットの読み（聞く）

大問2(1)

<ねらい>

活字体で書かれた大文字を識別し、その読み方を身に付けている。(G)

目標値 60.0% 正答率 45.0% 差 ▲ 15.0 ポイント

指導のポイント

アルファベットの読み方を答える問題である。歌やチャンツで慣れ親しんでいるアルファベットであるが、音だけの理解にとどまってしまうことも多い。文字と音をセットでインプットすることを意識させることが大切である。さらに、選択肢の全てのアルファベットが、声帯振動がある発音の子音のため、聞き分けにくいことも考えられる。覚えさせる必要はないが、授業の中で発音させる際に、アルファベットの発音記号を見せながら発音させるとよい。

会話全体の理解（聞く）

大問8

<ねらい>

夏休みの出来事についての発表を聞き、その概要を捉えている。

目標値 40.0% 正答率 30.4% 差 ▲ 9.6 ポイント

指導のポイント

夏休みに参加した、地域の仕事体験イベントについての発表を聞いて、その発表で使ったスライドを選ぶ問題である。wentという不規則変化の動詞の過去形表現に慣れていないと、その後に続く英語が正確に聞き取れないかもしれない。さらに、ateも聞き慣れない語なので、混乱してしまう可能性がある。しかし、farm, restaurant, making a salad, dream, cookなどの英語が聞き取れれば正答にたどり着けるであろう。分からない英語があっても、そこで止まってしまうずに、文章全体を聞き取るようにすることが大切なポイントとなる。

「思考・判断・表現」が良好である

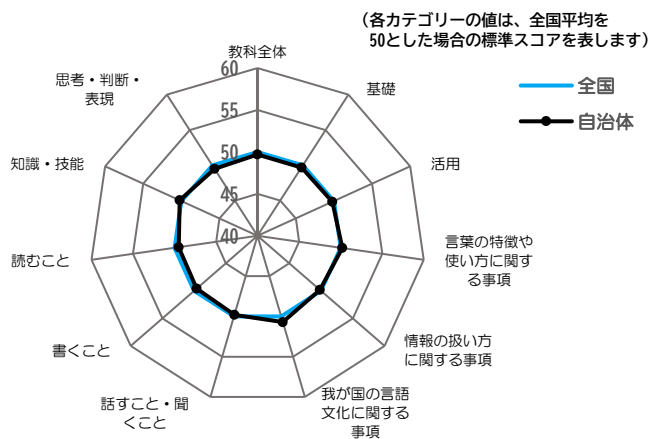
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		61.4	64.4	
基礎		66.8	69.3	
活用		50.0	53.9	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.5	69.9	
	情報の扱い方に関する事項	50.0	52.9	
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	73.3	
	話すこと・聞くこと	68.3	74.7	
	書くこと	53.3	57.6	
観点別	読むこと	58.3	59.2	
	知識・技能	66.0	68.6	
	思考・判断・表現	58.3	61.6	

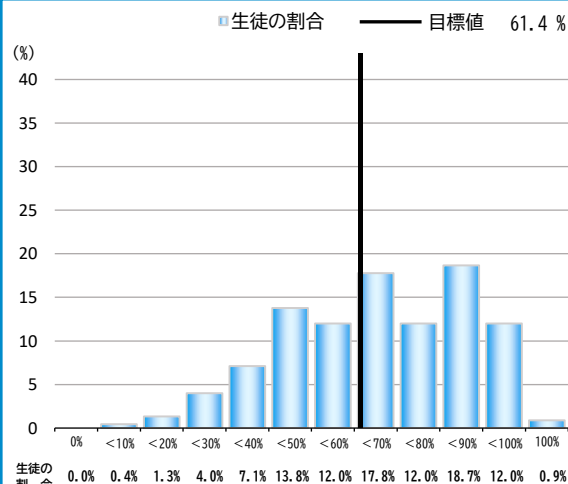
分析 コメント

- 中2国語は、教科全体の正答率が64.4%
- で、目標値を3.0ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「思考・判
- 断・表現」が61.6%で、目標値を3.3ポイ
- ント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を読む

大問2(1)②

<ねらい>

第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。

目標値 70.0% 正答率 55.1% 差 ▲ 14.9 ポイント

指導のポイント

漢字の学習については、新出漢字を押さえていくだけでも大変であるが、特に大切なことは、身に付けた漢字の知識を活用できるような場を設定していくことである。小テストを行うだけではなく、生徒どうしが問題を作って出し合うといったように、クイズ形式で学ぶ機会を設けるなど、さまざまな指導の工夫を行っていきたい。

説明的な文章の内容を読み取る

大問4(3)

<ねらい>

目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈している。

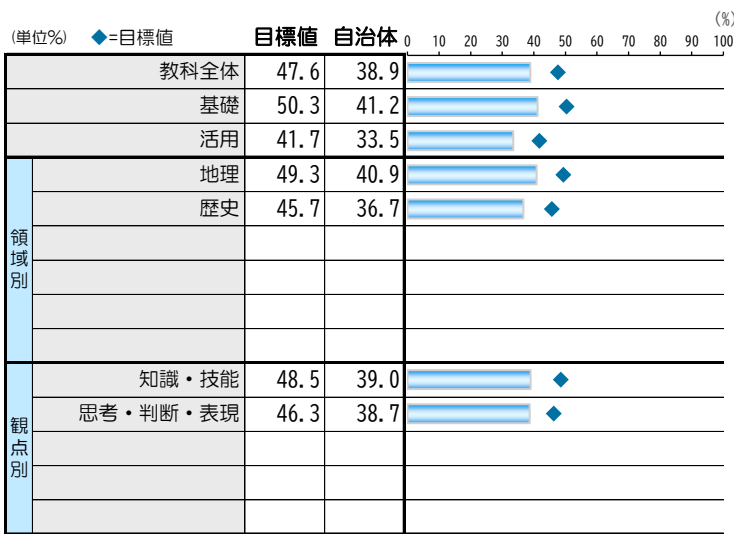
目標値 50.0% 正答率 43.1% 差 ▲ 6.9 ポイント

指導のポイント

文章と【資料】とを比較してみると、まず文章では、ソメイヨシノという品種の特徴や問題点と、それについての考察が述べられている。次に【資料】では、ソメイヨシノの問題点と今後に向けての自治体の取り組みが述べられている。共通することとして、ソメイヨシノの問題点が挙げられている。この問題点を、【ノート】のそれぞれの文章について整理していく。このような複数の説明的な文章を比較して読むときは、内容についての共通点と相違点について整理しながら読むことが中心になる。さらに、構成の仕方の違いについても押さえていきたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

正答率一覧

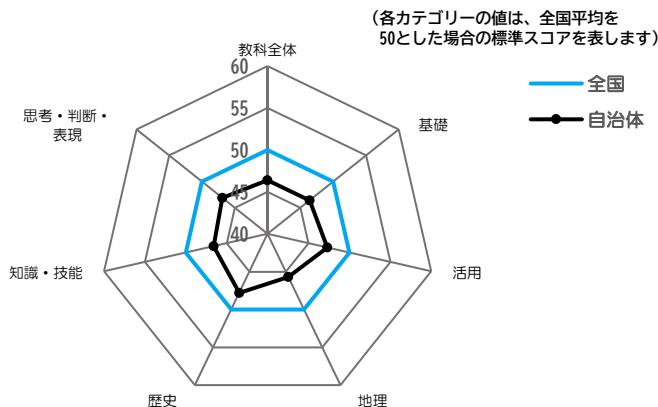


分析 コメント

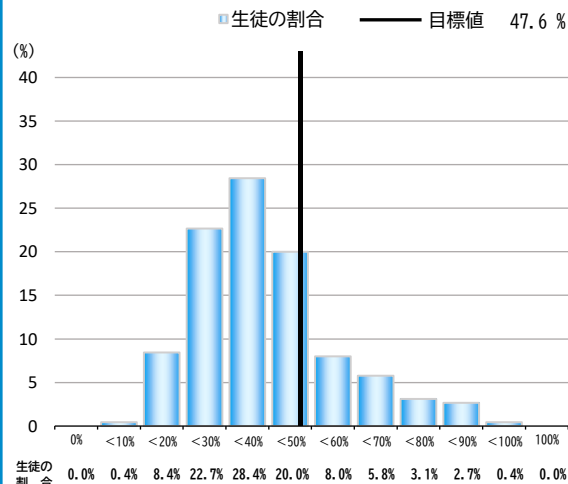
中2地歴は、教科全体の正答率が38.9%で、目標値を8.7ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が39.0%で、目標値を9.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

世界の諸地域

大問4(2)

<ねらい>

アフリカ州におけるモノカルチャー経済について理解している。

目標値 80.0% 正答率 41.3% 差 ▲ 38.7 ポイント

指導のポイント

アフリカ州にある多くの国々では、限られた種類の商品作物や鉱産資源の生産と輸出によって成り立つ、モノカルチャー経済が形成されていることを確認させる必要がある。このモノカルチャー経済には、天候による収穫量の減少や、世界的な経済の状況による価格変動の影響を受けることにより、毎年安定した収入を得ることが難しいという課題があることを理解させることが大切である。また、一つの国の経済の状況を確認するときには、国内総生産(GDP)の動きを知ることが重要であることも、併せて押さえてほしい。

中世の日本

大問8(1)②

<ねらい>

中世における日本と中国の貿易について、資料をもとに考察し、表現している。

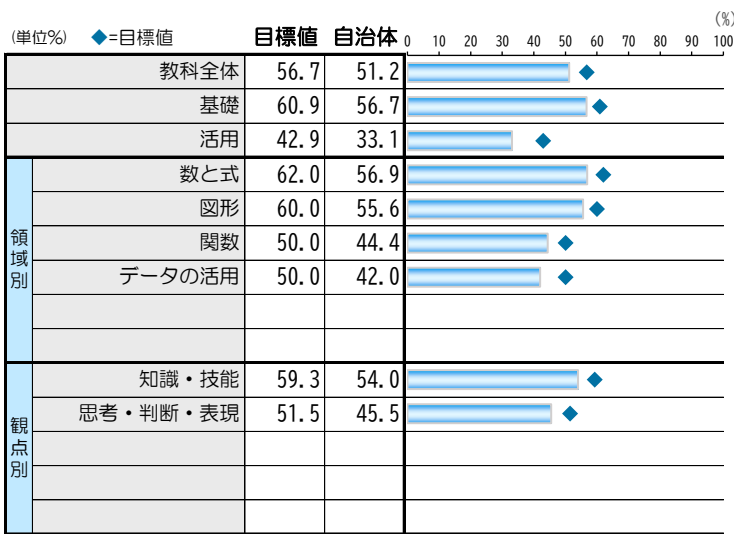
目標値 30.0% 正答率 12.4% 差 ▲ 17.6 ポイント

指導のポイント

室町時代には、日明貿易や琉球王国の国際的な役割などを基に、東アジア世界と密接な関わりが見られたことを捉えさせる必要がある。日明貿易については、その形式や内容の特徴を確認させるとともに、銅銭が大量にもたらされ、貨幣経済の発達を促したことなど、国内の経済や社会に及ぼした影響を理解させたい。明や朝鮮との貿易により、各地で産業が盛んになったこと、特に、商業では定期市が各地に生まれ、その取り引きに宋や明から輸入された銅銭が多く使われたことなどを押さえてほしい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

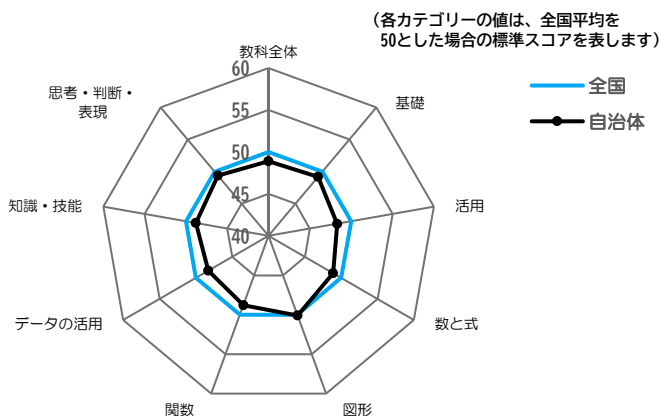


分析 コメント

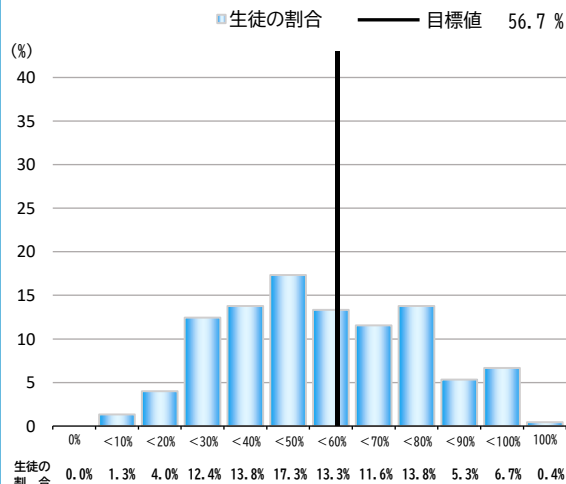
中2数学は、教科全体の正答率が51.2%で、目標値を5.5ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が45.5%で、目標値を6.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

1 次方程式

大問3

<ねらい> 1次方程式を解くことができる。

目標値 75.0% 正答率 56.0% 差 ▲ 19.0 ポイント

指導のポイント

移項の考えを使って1次方程式を解くことに課題がある。方程式を解くためには、まずは等式の性質を用いて、方程式を $\triangle x = \bullet$ の形に変形することが必要となる。指導する等式の性質の中で、両辺に同じ数を加えても、両辺から同じ数をひいても等式が成り立つことを通して移項が導かれることを、例えば、天秤などの操作的な活動を取り入れることなども含めて、実感させつつ理解させることが大切である。その中で、どうすれば効率的に方程式の解を求めるための変形ができるかを考えさせたい。

平面図形

大問12

<ねらい> BCの垂直二等分線を作図してできた中点と頂点Aを通る線が面積を二等分することを理解している。

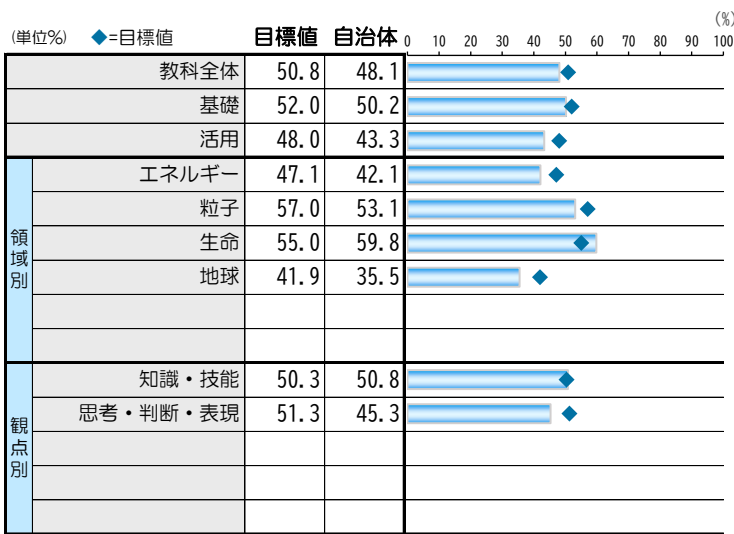
目標値 30.0% 正答率 12.4% 差 ▲ 17.6 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、どのような作図をすればよいのかが分からないこと、垂直二等分線を作図方法を忘れたことなどが考えられる。頂点Aを通り、 $\triangle ABC$ の面積を2等分するには、底辺BCの中点を通る直線を引けばよいことを理解させ、中点を求めるにはどのような作図をすればよいのかを考えさせるとよい。垂直二等分線や角の二等分線などの基本的な作図ができるようにさせるだけでなく、作図とその線の意味を理解させることが大切である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

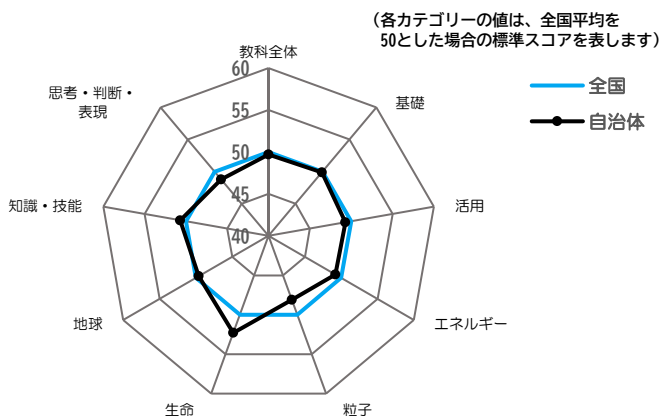


分析 コメント

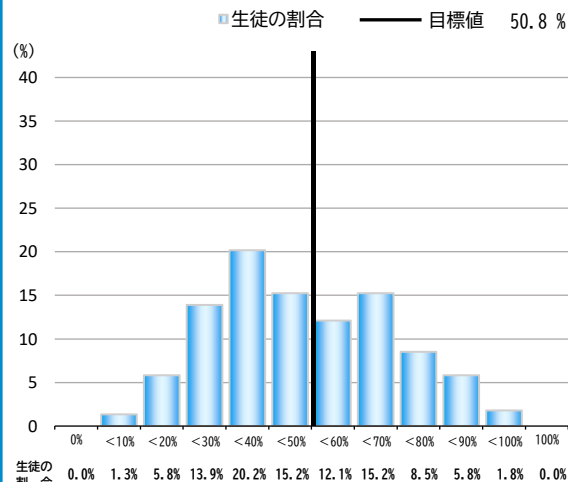
中2理科は、教科全体の正答率が48.1%で、目標値を2.7ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が50.8%で、目標値を0.5ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が45.3%で、目標値を6.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

地震

大問13(1)

<ねらい>

震源がほぼ同じである2つの地震の震度分布をもとに、マグニチュードと最大震度・ゆれが伝わる範囲の広さの関係を説明できる。

目標値 30.0% 正答率 11.7% 差 ▲ 18.3 ポイント

指導のポイント

マグニチュードと地震の揺れの関係について、図1・図2の図から読み取る必要がある。図1と2で同じところ、異なることを考えさせるとよい。まず、震源の深さ・震央がほぼ同じであるため、地震が起こった位置が同じように考えられる。次に、図1では震度3～4が一部に見られるのに対して、図2では震度3～4が広く広がり、更に震度5及び6が見られる点で異なる。これらから、マグニチュードと地震の揺れの強さや範囲に気付かせて、理解させたい。なお、震度が大きければマグニチュードも大きいなど、誤った考え方を生じる生徒もいるので注意を要する。

光の性質

大問8(2)

<ねらい>

光源・凸レンズ・スクリーンの距離をもとに、凸レンズの焦点距離を求めることができる。

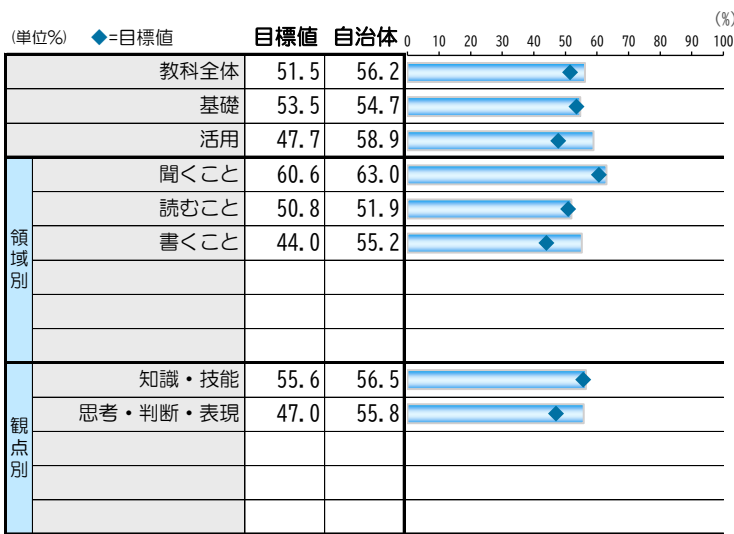
目標値 30.0% 正答率 13.9% 差 ▲ 16.1 ポイント

指導のポイント

光学実験は楽しく行えても、像のでき方については覚えていない生徒も多い。本問では、凸レンズの像のでき方を正確に理解していないと正答できないので、凸レンズから焦点距離の2倍以上離れた物体の像、焦点距離の2倍の位置にある物体の像、焦点距離の2倍以下から焦点距離までにある物体の像、焦点距離にある物体の像、焦点以下にある物体の像について、整理した形で伝えたい。凸レンズとスクリーンの距離は、光源と凸レンズの距離40cmと同じであることから、焦点距離の2倍が40cmであると分かり、これは像ができない結果とも一致することを確認させたい。

「思考・判断・表現」が良好である

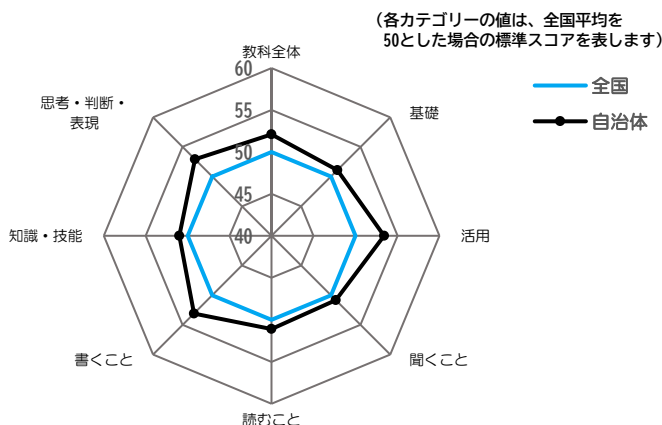
正答率一覧



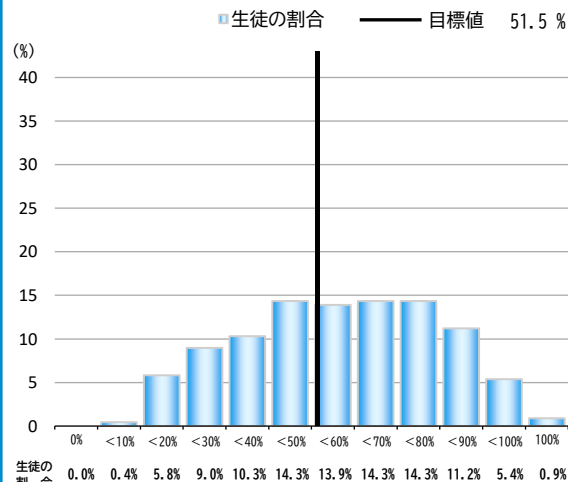
分析 コメント

- 中2英語Aは、教科全体の正答率が56.2%で、目標値を4.7ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が55.8%で、目標値を8.8ポイント上回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

語形・語法の知識・理解

大問6(1)②

<ねらい>

対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(代名詞の目的格)

目標値 60.0% 正答率 48.4% 差 ▲ 11.6 ポイント

指導のポイント

人称代名詞の問題であるが、苦手とする生徒も多いため、丁寧に指導することが重要である。教科書や通常のワークブックで、人称代名詞の問題を数多く練習させていく必要がある。大切なことは、普段から声に出して言わせることである。それによって、英語の音として頭に残り、I like heでは音的に違和感があることに気付けるよう、繰り返し指導したい。

リスニング（対話文の応答）

大問5

<ねらい>

英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを書いている。

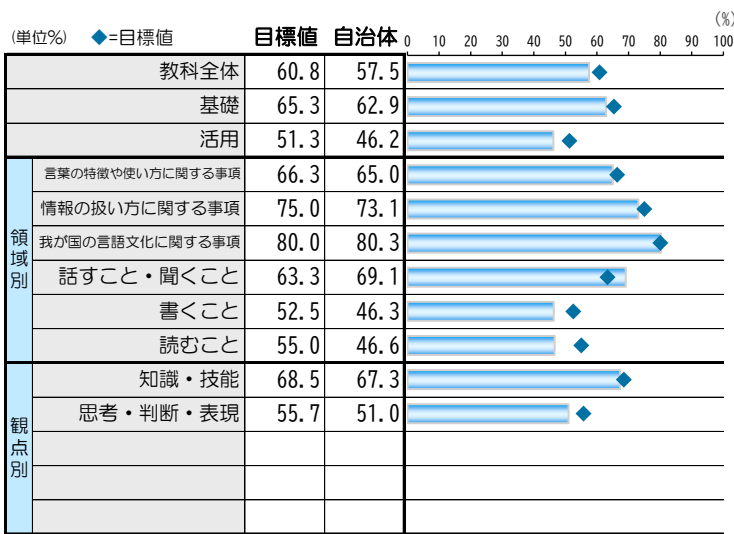
目標値 30.0% 正答率 22.0% 差 ▲ 8.0 ポイント

指導のポイント

リスニングとライティングの融合（活用）問題である。本問では、アンディが何を尋ねているのか、最後の2文を確実に聞き取る必要がある。授業初めのsmall talkなどで、疑問詞疑問文を扱うなどして、その定着を図ることが大切である。また、教科書の題材にディベート的なものや、意見文などがある場合、それに対して自分ならどう答えるのか、その内容を書かせる活動を日頃から行うことにより、英語を書く力を身に付けさせるとよい。その際、教師が添削するのであれば、個々の生徒の英語力に応じて、ある程度時間を取って行うことが望ましい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

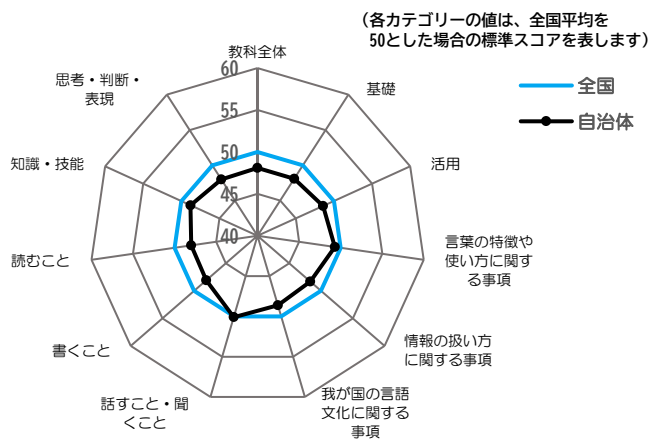


分析 コメント

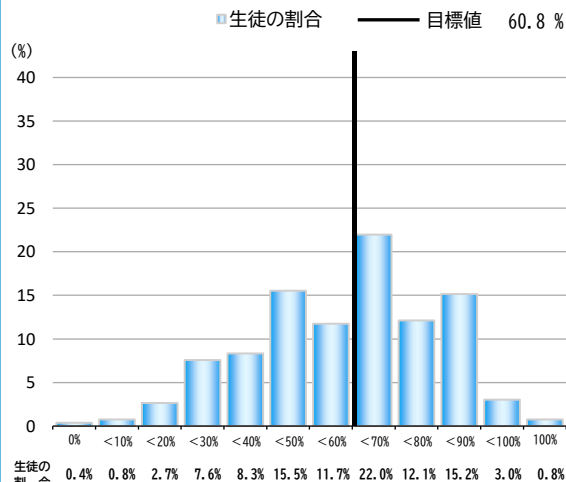
中3国語は、教科全体の正答率が57.5%で、目標値を3.3ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が51.0%で、目標値を4.7ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文法・語句に関する事項

大問3(3)

<ねらい> 類義語について理解している。

目標値 55.0% 正答率 39.4% 差 ▲ 15.6 ポイント

指導のポイント

類義語の関係にある熟語についての理解を問う問題である。第3学年は、これまでの学習のまとめの時期でもある。類義語・対義語、同音異義語、同訓異字、熟語の組み立て、四字熟語などについて、折に触れて整理していきたい。

説明的な文章の内容を読み取る

大問4(2)

<ねらい> 文章の構成や論理の展開について考えている。

目標値 60.0% 正答率 45.8% 差 ▲ 14.2 ポイント

指導のポイント

文章の構成や論理の展開について理解できているかを見るために、段落どうしの関係を考えさせながら、段落の役割について問う問題である。本問の文章では、各段落の最初に接続の言葉がほとんどないため、まずは文章全体の構成について押さえることで、それぞれの段落の役割や、前後の段落との関係を理解させるとよい。説明的な文章では、その構成や展開を押さえて読むことが、内容の理解につながることを把握させることが大切である。

「知識・技能」の定着に課題が残る

正答率一覧

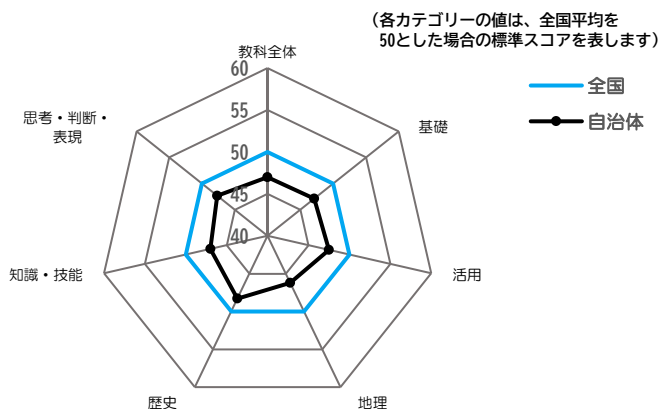
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		47.1	39.7	
基礎		49.3	40.7	
活用		42.2	37.5	
領域別	地理	52.5	43.8	
	歴史	42.0	35.8	
観点別	知識・技能	47.2	38.3	
	思考・判断・表現	46.8	42.0	

分析 コメント

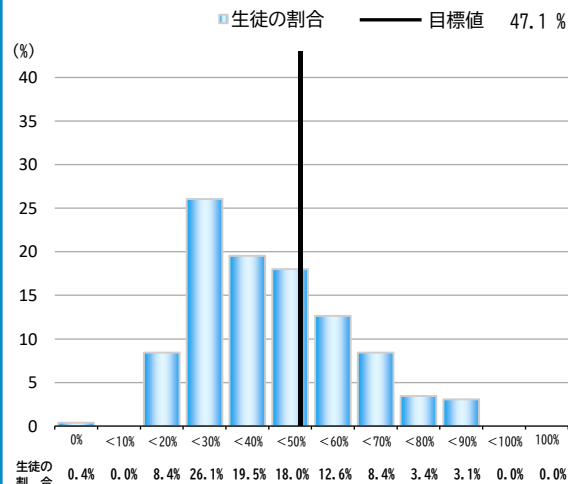
中3地歴は、教科全体の正答率が39.7%で、目標値を7.4ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が38.3%で、目標値を8.9ポイント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

江戸時代

大問5(4)

<ねらい> 田沼意次の改革について理解している。

目標値 50.0% 正答率 32.2% 差 ▲ 17.8 ポイント

指導のポイント

徳川綱吉の政治、徳川吉宗の享保の改革、田沼意次の政治、松平定信の寛政の改革などについて、その内容や改革の背景などを押さえさせることが大切である。徳川吉宗の死後に老中になった田沼意次は、株仲間に入れや販売の独占権を与える代わりに、冥加金などの営業税を徴収して、株仲間をより積極的に保護した。これにより経済は発展したが、地位や特権を求めて賄賂が横行した上、飢饉によって百姓一揆や打ちこわしが起こったため、意次は老中を辞めさせられたことを理解させたい。

明治時代

大問7(2)

<ねらい> 江戸時代後期から明治時代初期の外交について、資料をもとに判断している。

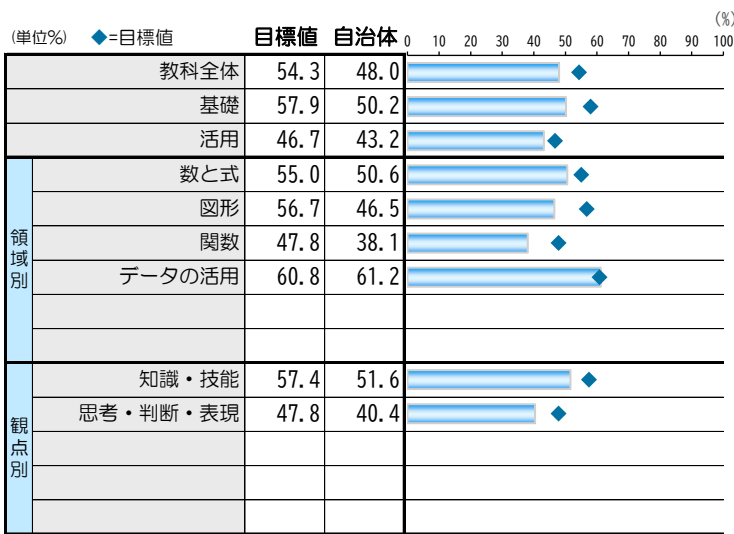
目標値 40.0% 正答率 23.0% 差 ▲ 17.0 ポイント

指導のポイント

「岩倉使節団」は当初、江戸幕府が幕末に欧米諸国との間で結んだ不平等条約の改正を目的に派遣されたことを確認させる必要がある。条約の改正という目的は果たせなかったものの、その目的を欧米の産業、社会状況を視察することに変更したことで、一定の成果を上げることができたことを理解させたい。本問では、複数の資料を関連付けて読み取ることが求められる。日頃の授業の中で、資料から必要な情報を適切に読み取ること、資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えること、複数の資料を関連付けて読み取ること、繰り返し実践していくとよい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

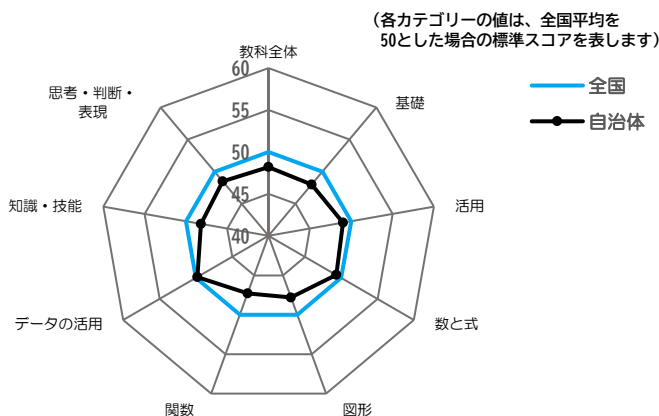


分析 コメント

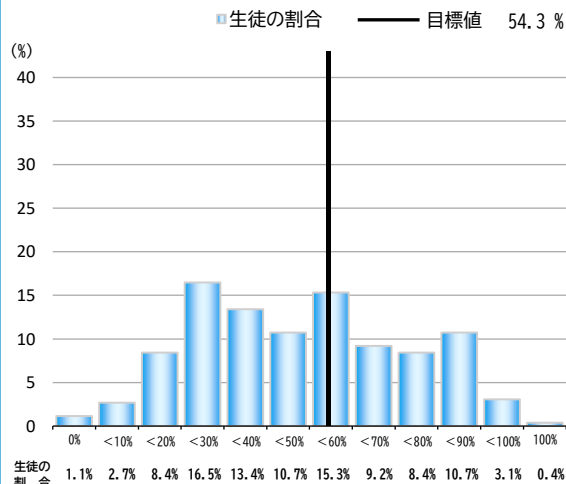
中3数学は、教科全体の正答率が48.0%で、目標値を6.3ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が40.4%で、目標値を7.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

証明

大問16(1)

<ねらい>

与えられた条件から、三角形の合同を証明し、結論を導くことができる。

目標値 30.0% 正答率 7.3% 差 ▲ 22.7 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、図形の基本的な性質や三角形の合同条件、証明の進め方などに習熟していないことなどが考えられる。問題1の証明と沙希さんの証明は、②のところまでは同じであることを確認し、 $AE=CF$ 、 $AB=CD$ 以外のどこが等しいのかを考えさせて、図の中に記号でかき込ませる。 $\angle BAC=\angle DCA$ より、 $\angle BAE=\angle DCF$ となることを理解させ、最後に三角形の合同条件を示せばよいことを指導するとよい。図形の証明を記述することは易しくないが、繰り返しの指導の中で定着するように生徒の実態に応じた指導を工夫することが大切である。

1 次関数

大問6(2)

<ねらい>

1次関数のグラフの傾きと通る1点の座標から、その式を求めることができる。

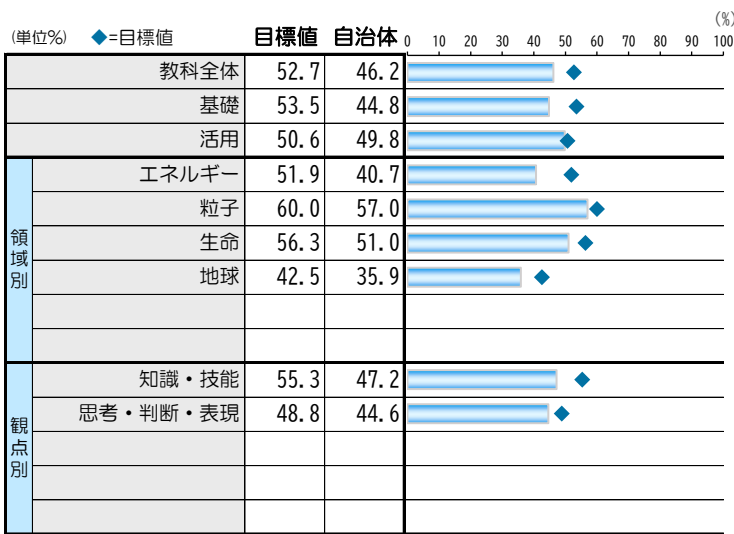
目標値 40.0% 正答率 24.1% 差 ▲ 15.9 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、1次関数の式を求めることに習熟していないことなどが考えられる。はじめに、1次関数 $y=ax+b$ のグラフでは、 a は傾き、 b は切片を表していることと、それぞれの意味を確認するとよい。本問では、傾きが -2 であることから、求める1次関数の式は、 $y=-2x+b$ と置くことができる。グラフが点 $(-3, -1)$ を通ることから、 $x=-3$ 、 $y=-1$ を代入すると、 $-1=-2 \times -3 + b$ となり、 $b=-7$ を求めることができることを理解させたい。1次関数の指導では、表、式、グラフを一体のものとして見るように指導することが大切である。

「知識・技能」の定着に課題が残る

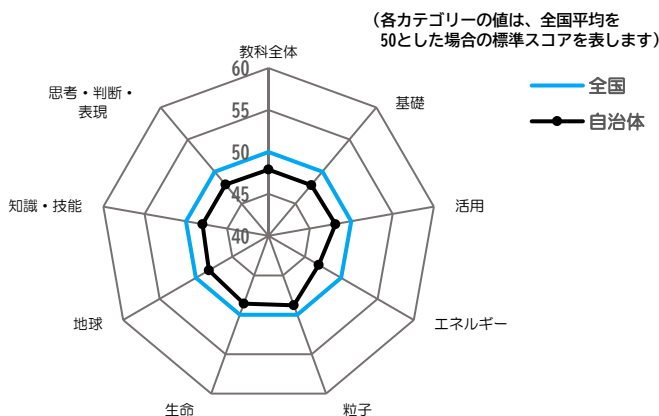
正答率一覧



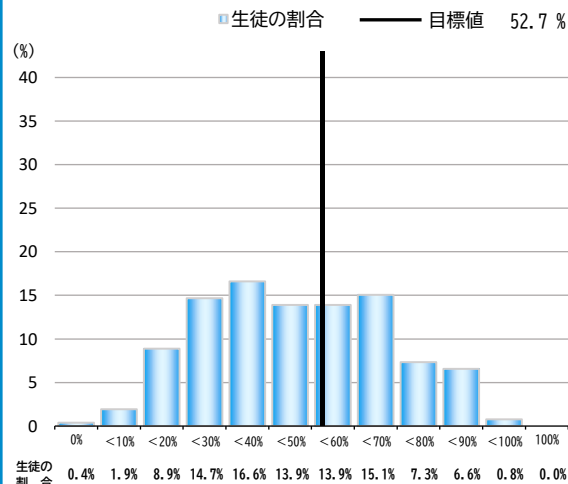
分析 コメント

- 中3理科は、教科全体の正答率が46.2%で、目標値を6.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が47.2%で、目標値を8.1ポイント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

気象の観測

大問7(3)

<ねらい>

1000hPaという圧力がどれぐらいの圧力かを指摘できる。

目標値 30.0% 正答率 0.4% 差 ▲ 29.6 ポイント

指導のポイント

気圧という言葉は知っていても、直感的に理解したり、納得したりすることができない生徒もいる。誤答の生徒には、ゴムシートを持ち上げる実験などにより、大気圧を感じさせたい。圧力は面に働く力の効果であることを伝え、気圧について振り返りをさせるとよい。また、PaやNなどの単位、hという文字の意味について理解していない場合も、解答に戸惑う。それらが何を示すのかを丁寧に確認させる必要がある。1000hPaは100000Paであり、また100000N/m²であること、1Nは0.1kgの物体に働く重力の大きさであることに気付くと、生徒の理解が進む。

電流の性質

大問10(3)

<ねらい>

抵抗を直列や並列につないだときの電力の関係を指摘できる。

目標値 30.0% 正答率 5.4% 差 ▲ 24.6 ポイント

指導のポイント

実物配線は回路図と異なり、さまざまなものが示されているため、電流の流れや電圧の様子をつかめない生徒もいる。誤答の生徒には、電力や直列・並列回路の電流、電圧の関係を指摘し、それぞれの抵抗器Aの状態を考えさせるとよい。図5の並列回路は電圧が同じため、抵抗器Aに流れる電流と電圧は図4と同じである。図6の直列回路では各部分の電圧の和が12Vとなるため、抵抗器Aにかかる電圧は12Vより小さい。また、抵抗器Aは抵抗器Bと直列になっているため、図4より小さな電流となる。図6の抵抗器Aの電力の様子が見えてくるので、生徒の理解が深まる。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

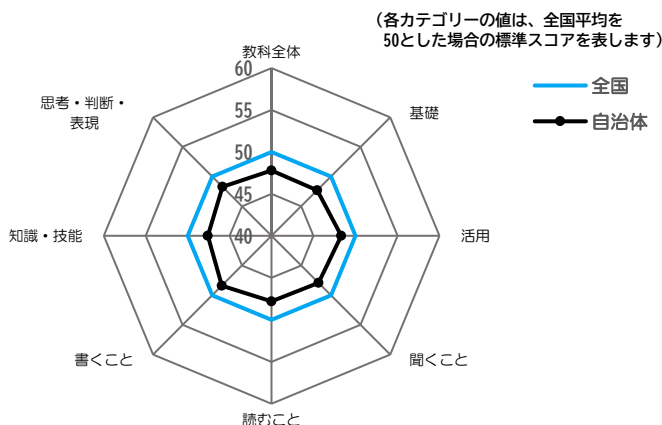
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		52.0	47.3	
基礎		55.8	50.6	
活用		45.5	41.6	
領域別	聞くこと	55.6	50.7	
	読むこと	52.3	48.2	
	書くこと	47.5	42.1	
観点別	知識・技能	55.6	51.8	
	思考・判断・表現	47.3	41.5	

分析 コメント

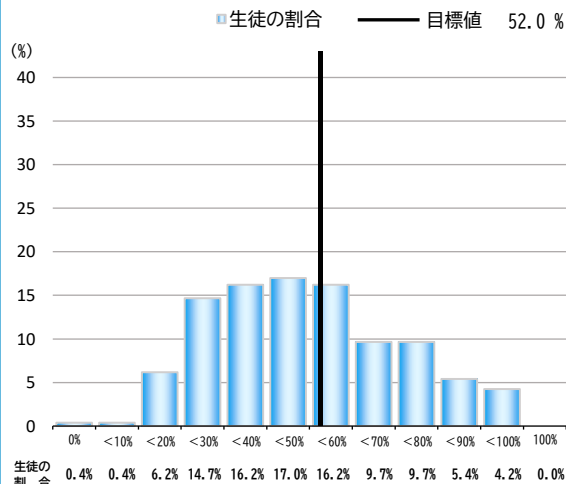
中3英語Aは、教科全体の正答率が47.3%で、目標値を4.7ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が41.5%で、目標値を5.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

場面に応じて書く英作文

大問10(1)

<ねらい>

対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(理由をたずねる)

目標値 30.0% 正答率 10.8% 差 ▲ 19.2 ポイント

指導のポイント

本問では、“Because he is my coach.”という答えのみから、これを導き出す質問文を想像することは難しいかもしれないが、becauseに着目して、疑問文の最初の疑問詞がwhyであることは容易に推測できるであろう。その上で、空欄の前の2つの発言もよく読んで、対話全体から考えていくことが大切である。普段の指導においては、教科書本文の対話文にある疑問文を隠して、「ここにはどのような質問が入るのか」という問いかけをすることも有効である。

長文の読み取り

大問8(4)

<ねらい>

メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。

目標値 30.0% 正答率 16.6% 差 ▲ 13.4 ポイント

指導のポイント

授業においてメールや手紙文を扱うときに、返信のメールや返事の手紙を書かせるなどのライティング活動を取り入れることが考えられる。その際、適切な英文を書くためには、元のメールや手紙の内容を正確に理解している必要がある。英文全体の内容を理解する手段として、各段落の中で何回も登場する語を探したり、段落を短い英語で表したりして、その段落で最も言いたいことを探し当てていくことも有効である。生徒の書いた英文については、文法事項やスペリングだけでなく、気持ちを込めた文章になっているかどうか確認したい。